

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第88号

2020年2月11日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2020 年度大会概要

日時：2020年6月13日(土)・14日(日)

会場：北九州市立大学北方キャンパス (〒802-8577 福岡県北九州市小倉南区北方 4-2-1)

※会場アクセス <https://www.kitakyu-u.ac.jp/access/kitagata.html>

担当：濱野健(北九州市立大学)・一谷智子(西南学院大学)・藤田智子(九州大学)

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

第1日目 6月13日(土)

9:30 開会セレモニー

10:00~12:00 一般個別研究報告

12:00~13:00 昼食

13:00~13:45 特別講演(豪日交流基金助成)：

David Lowe (東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授)

14:30~17:30 豪日交流基金(AJF)助成企画(その1)

「持続可能な社会構築に向けた越境的対話の可能性：「環境」とその保全をめぐるオーストラリアと日本の試み(Trans-border dialogue in environmental studies)」

*報告には全て同時通訳(日英)がつかます。

基調講演：

Professor Anthony (Tony) Birch (Dr Bruce McGuinness Professorial Research Fellow, Victoria University, VIC)

“Things of Stone and Wood” and Wool and Other Things

報告者：

1) 原口昭氏(北九州市立大学国際環境工学部教授)

「硫酸汚染のひろがり」

2) 加藤久美氏(和歌山大学観光学部教授・国際観光学研究センター、センター長)

「観光地における社会・環境持続性への取り組み—オーストラリアの事例から」

3) 北九州市環境局環境国際戦略課企画調整係担当者

「北九州市の環境国際戦略」

ディスカッサント：

1) 堤 純(筑波大学生命環境系教授)

2) 湊圭史(松山大学人文学部教授)

モデレーター：

一谷智子(西南学院大学文学部教授)

18:30 懇親会

第2日目 6月14日(日)

9:00~11:30 豪日交流基金(AJF)助成企画(その2)

「地域社会と多文化共生—オーストラリアにおける移民政策・定住支援から見る、現代日本の地方都市における多文化共生社会への取り組みの現状と課題(Multicultural society in Japan: lessons from Australia)」

報告者：

- 1) 中須賀美幸（越前市国際交流協会事務局長）
「越前市の多文化共生施策の現状」
- 2) 河村悦郎（北海道中小企業家同友会函館支部政策委員会委員長）
「定住外国人のコミュニティー支援モデルの構築：第三国定住難民受入に向けたとりくみとその後」
- 3) 一徳仁（北九州市企画調整局国際政策課多文化共生係課長）
（タイトル未定）

ディスカッサント：

- 1) 舟木紳介（福井県立大学看護福祉学部准教授）
- 2) 森谷康文（北海道教育大学函館校准教授）
- 3) 濱野健（北九州私立大学文学部准教授）

モデレーター：

森恭子（文教大学人間科学部教授）
12:00～13:00 昼食休憩/理事会
14:00～15:30 総会

2. 第11期第2回理事会報告

第11期第2回理事会が2019年12月8日（日）、慶應義塾大学三田キャンパスにて開催されました。出席理事は12名、委任状提出理事5名、出席監事1名でした。以下、概要をご報告いたします。

【報告事項】

1. 運営委員会開催報告
2. 2020年度全国研究大会（北九州市立大学）の日程（仮）と特別企画、およびAJF助成金申請に関する報告
3. 2021年度全国研究大会（福島大学）、およびAJF助成金申請に関する報告
4. 関東例会、関西例会の開催報告
5. 学会誌（第33号）の編集進捗状況に関する報告
6. 学会誌と講演録の投稿ルールに関する報告
7. 2020年度からの会費納入方法の変更に関する報告
8. 3名の入会と1名のみなし退会の取り消しに関する報告

【審議事項】

1. 国際文献社との契約更新に関して、同社との交渉を継続し、必要に応じて理事に情報提供することが確認された。最終的な契約更新の判断については運営委員会に一任することが了承された。
2. 第12期理事会からの理事・監事の任期に関して、現行の3年から2年に短縮する会則変更について来年の総会で提案することが了承された。
3. 「みなし退会者」の大会での登壇に関する内規の提案があり、了承された。
4. 3名の退会が了承された。
5. 投稿要領の改定案および申し合わせ（案）について、継続審議となった。
6. 全国研究大会における非会員の報告資格と論文投稿に関する意見が出され、海外の非会員および複数の報告者については継続審議となった。国内の大学院生については入会を奨励していくことが確認された。
7. 大会開催案内を含む全ての学会報の電子化について提案があり、了承された。
8. 2020年度全国研究大会での個別報告の電子申請について提案があり、了承された。
9. 全国研究大会における海外からの招聘者の国際航空券手配について、招聘者本人による渡航費の事前立て替えを避ける方法を検討できないかとの意見が企画担当者からあったことが報告された。理事会はAJFへの会計報告の観点から、従来通り、事前立て替えを依頼することが妥当であるとの判断に至った。
10. 終身会費制度の導入に関する意見があり、次回の理事会で提案すべく、運営委員会で検討を進めることとなった。

（以上）

3. 国際会議参加報告：第7回 Foundation for Australian Studies in China Conference

崔 宇 (追手門学院大学)

2019年11月21-24日、中国・蘇州のシドニー大学中国センターにて、The 7th Foundation for Australian Studies in China (FASIC) カンファレンスが開催された。カンファレンスには中国とオーストラリアをはじめ、世界各地から参加者が集まり、教育や文学など人文科学のみならず、技術革新、環境、都市開発、ライフサイエンスといった社会科学の研究課題も多く報告され、ダイバシティ豊かな国際研究交流の場となった。今回はFASICからの招待を受け、日本からオーストラリア学会会員2名、加賀爪優(京都大学)と崔宇(追手門学院大学)が参加した。

今大会の共通テーマは“**Innovative Partnerships: Australia and China Engagement in Education, Science and Technology**”であった。各パネルセッションでは、世界中から集まった研究者と実務家たちがそれぞれの専門領域から最先端の取り組みと最新の研究成果を披露し、世界最先端のオーストラリア研究のフェスティバルとして、学術的なブレイクストーミングの時間を存分に与えてくれた。とりわけ、加賀爪会員の発表セッションでは、“**Emerging Collaborations in Bio-tech and Agri-bio**”というパネル・テーマについて、多くのオーストラリアの最前線の研究開発の実績が挙げられた。加賀爪会員は“**Prospects of Bioenergy Promotion for Replacing Petroleum and its Relation with Food Market**”のタイトルで、再生可能エネルギーとしてのバイオマス利用の世界最前線の研究について説明され、会場から凄まじい反響を呼んだ。また、崔が発表した“**Future Collaborative Education Models**”というパネルセッションでは、豪中の最先端の連携教育の実例が紹介され、崔は“**Toward the Implementation of Innovation Management**”というテーマで、日豪のイノベーション・マネジメント研究の実績と今後の方向性について報告し、フロアと他のパネリストから多くの質問が寄せられ、豪中日のイノベティブ・パートナーシップの構築に建設的な知見が予想以上に得られた。

今回のカンファレンスでは、各会場の設置から宿泊や晩餐会まで、参加者に対する「おもてなし」が申し分のないものと感じられた。40年前に加賀爪会員が蘇州に研究訪問した時にまだ完全に荒地だった場所は、今回のFASICの開催地となった蘇州工業園区の町風景を観覧すると、中国の経済発展の目覚ましさを実感させた。また、我々日本オーストラリア学会のメンバーは、今大会の議長を務めた元立命館大学アジア太平洋研究センター長のKee Pookong教授に温かく世話して頂いた。深く御礼を申し上げたい。そして、日本でお世話になったUniversity of Queensland 名誉教授のDavid Carter先生は、今回ご自身が座長として務めた全てのセッションにおいて、日本のオーストラリア研究の情熱と成果を称賛して下さい。この場を借りて感謝を申し上げます。

※学会 Facebook ページに近年のFASICカンファレンスの写真を投稿しましたのでぜひご覧下さい※

<https://www.facebook.com/australianstudiesassociation.jp/posts/1094416540906856>

4. 第29回地域研究会(関西例会)の報告

南出真助(追手門学院大学)

2019年11月30日(土)14:00~17:00に、追手門学院大学(総持寺キャンパス)にて、共通テーマを「オーストラリア・ニュージーランドの児童福祉と保育政策」として討議した。発表は①栗山直子(追手門学院大学)「ニュージーランドにおける子どもの『望ましい生活』の保障と虐待児童への支援」、②平野知見(京都文教大学)「オーストラリアにおける保育の質評価システムと小学校教育への接続」である。①は、親の飲酒やドラッグが誘因となって発生するケースが多いとされる実子への虐待行為に対して、物理的に両者を切り離すのではなく、祖父母をはじめとする親族ネットワークの活用について報告したものであった。②は、オーストラリアの複線型の保育システムを紹介し、個々の施設がどのような「質評価」を受け、また小学校教育に向けての接続的プログラムを展開しているのかを報告したものであった。①②とも発表者の長期的な取材にもとづく実証的研究として、具体的で説得力を持つ内容であると同時に、それらの問題点を社会化する視点が提示されており、予備知識の乏しい参加者にも理解が深まる有意義な発表であった。フロアからは、さまざまなタイプの「障がい者」への対応策に関する質問や、オーストラリアでの自らの「子育て経験」からのコメント等もあり、議論は多岐にわたった。参加者は16名であった。

5. 第14回地域研究会（関東例会）の報告

杉田弘也（神奈川大学）

2019年11月9日（土）、東京大学駒場キャンパスにおいて、デイヴィッド・ロウ東京大学 CPAS 客員教授（ディーキン大学）による「米中対立の中のオーストラリア外交」をタイトルとした講演が行われ、20名以上の参加があった。

1972年の米中接近以来、米国の覇権を前提とした平和と繁栄を謳歌してきたアジア・太平洋地域は、経済規模において日本を追い抜いた中国が米国の覇権に挑戦し、米国が極めて不安定な大統領を擁していることで、不安が高まっている。冷戦期のオーストラリア外交を専門とするロウ教授は、現在の状況について、貿易関係を最重要視する「経済的楽観主義者」と、「戦略的現実主義者」が存在するとし、後者を、①米中がこれまでのような共存関係を継続できるとする「リベラル楽観論者」、②これを望みながら中国の台頭に伴う緊張を解消する手段を模索する「不安な楽観論者」、そして③米中対立は不可避でありオーストラリアはその軍備や米国との同盟関係を見直すべきと考える（ANUのヒュー・ホワイト名誉教授に代表される）「リアリスト」に大別した。ロウ教授は、コロボ・プランを念頭に、中国を封じ込めるだけではなく、インドネシアも加えたあらたなインド・太平洋地域の協力関係の構築を提唱した。

参加者の関心が高く、講演後の質問も活発に行われ、時宜に合った有意義な講演会であった。

6. 第30回地域研究会（関西例会）のお知らせ

*会員以外の方も参加できます。入場無料。

日時：2020年3月21日（土）14:00～17:00

会場：「キャンパスプラザ京都」6階 第7講習室（龍谷大学）

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル

交通：JR 京都駅正面口から西（大阪方向）へ徒歩約3分

連絡先：追手門学院大学国際教養学部 南出真助 minamide@otemon.ac.jp

*終了後にJR 京都駅周辺で懇親会を催します。会場予約の都合がありますので、参加希望者は3月14日（土）までに、必ず上記南出宛てメールをください。

共通テーマ：オーストラリアにおける歴史認識と政治変革の新たな動向

発表①「ブッシュの自然と人々の歴史認識：ヨーロッパ系オーストラリア人への聞き取り調査から」

（京都産業大学 前川真裕子）

本発表で注目するのはヨーロッパに出自的背景を持つオーストラリア人である。近年ではアングロ・ヨーロッパ人と呼ばれている人々である。特に、それらの人々がオーストラリアに特有のブッシュの自然に関わる活動の中で、どのように土地の歴史を認識してきたのか考察していきたい。2017年からメルボルンで断続的に行ってきたフィールド調査の報告をもとに発表をおこなっていく。

発表②「クオータ制か否か：オーストラリア連邦議会における女性議員数の上昇と限界」

（神奈川大学 杉田弘也）

現在オーストラリア連邦下院における女性議員は、全151人中46人（30.5%）を占め、これは Inter-Parliamentary Union（列国議会同盟）によれば世界ランキング46位にあたる。政党別の女性比率をみると、労働党では40%を超える一方で自由党・国民党連合は20%に満たず、二大政党間で対照的な結果となっている。1996年には10%に満たなかった労働党の状況は劇的に変化したが、自由党・国民党連合は変わっていない。本報告では、このような結果がどのように生じたのか、今後の見通しはどうか、さらには世界ランキング163位の日本にはどのようなインプリケーションがあるのか等について考えていきたい。

7. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2020年2月に年会費を納入しても、2018年度未払いの場合、それは2018年度の会費となります。すなわち、2019年度は未納ということになります。また2017、2018年度未払いの場合、2017年度分の会費納入になります。

<会費が未納となっている会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2019年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着の方はアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当宛までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行しておりません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2019年3月発行、第32号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

8. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報の電子化を進めています。今年度まで学会直前号のみ他の配布物と併せ紙媒体で発行していましたが、来年度より学会直前号を含むすべての会報を電子化します。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせは「マイページ」に登録された電子メール宛てに送られます。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

9. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。2020年1月21日付で投稿要領を改訂しました。改訂版の投稿要領・投稿申込書・投稿先はウェブサイトをご参照ください。投稿申込書もウェブサイトからダウンロードしてください。2021年3月刊行予定の第34号の投稿は2020年8月末で締め切ります。不明な点などがあれば、編集担当理事・塩原良和 (shiobara@law.keio.ac.jp) までお問い合わせください

第12号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関係する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは2020年10月30日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト : <http://australianstudies.jp/publish/index.html>

10. 新刊書のご案内

関根政美・塩原良和・栗田梨津子・藤田智子（編著）『オーストラリア多文化社会論：移民・難民・先住民族との共生をめざして』法律文化社、2020年2月刊行、A5判、318頁、3,000円＋税

多文化社会化する日本の今後も見据えながらオーストラリアが採用する多文化主義政策の理念・経験・影響等を本格的に論じる。先住民族と非先住民族、先住民族と移民・難民といった二項対立・分断を超えて共生社会を作るために新自由主義下での政策の見直しも含め検証。（[出版社ホームページ](#)より）

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当
TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒340-0042 埼玉県草加市学園町 1-1 獨協大学外国語学部 永野隆行研究室気付
TEL : 048-943-1242 Email : tnagano@dokkvo.ac.jp
会費振込先 : 00190 - 3 - 157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当 : 藤岡伸明 (静岡大学) / 編集協力 : 小野塚和人 (神田外国語大学)]